

巻頭言 消化器センターでの癌治療

近年、日本でも男女ともに大腸癌死亡者数が増え続けています。その大きな原因と言われているのが日本人の食生活の欧米化ですが、おそらく今後も動物性飽和脂肪や動物性の赤身肉の食生活は続くでしょう。

癌の早期発見が大切だと皆さん理解しているものの、大腸内視鏡検査に対するハードルは高いようで、未だに抵抗を強く感じておられる患者さんが多くいらっしゃいます。残念ながら、当院でも大腸進行癌の状態です手術せざるを得ない症例は年々増加傾向にあります。

当消化器センターでは、消化器癌の治療法について内科・外科で合同カンファランスを行い、胃、大腸内視鏡下で切除するか外科的切除するかをよく検討して決定しております。患者さんになるべく負担の少ない、しかし治療の質が担保されるように心掛けて努力邁進しております。

内科では内視鏡での診断力、内視鏡下腫瘍切除(EMR、ESD)、外科では腹腔鏡手術はもちろんのこと、開腹手術の質をより一層上げることに日々奮励努力しております。内科医師による内視鏡診断力、内視鏡下腫瘍切除の技術レベルは本邦でも最高位にあると自負しております。内視鏡下腫瘍切除においては、他の施設では外科的切除になる症例でも内視鏡下腫瘍切除できる技術力を持っております。最近では工藤消化器センター長率いる内科医師メンバーがAIを駆使した診断に力を入れており、癌診断をより一層高いレベルで展開しております。

一方、内視鏡下での治療が適応とならない癌症例は外科が担当いたします。外科で行う手術は腹腔鏡手術、開腹手術のいずれかとなります。腹腔鏡手術は全国的に広まっているものの、安定した技術力、つまり手術の質や安全性には施設間で差が生じているのが現状です。患者さんにとって、腹腔鏡手術は傷が小さく、疼痛が少ないという大きなメリットがあります。外科医は、その適応について、厳しく判定・評価し、その患者さんにとって何がベストなのかをグループカンファランスで検討して手術に臨んでいます。術中評価が必要な場合、出血傾向、心臓や肺に疾患を持っている、摘出臓器が大きい、癒着が考慮される等、どうしても開腹術を選択せざるを得ない症例があります。癌の手術の最大の目的は、癌の根治です。過不足のない適切な切除範囲にすることが重視されます。取りこぼしがあり、再発といったことをいかに減らすかに着眼点がありますが、最も重要なことは、**安全第一が最重要な命題**だということです。

安全性を損ねてまで腹腔鏡にこだわる意味はありません。腹腔鏡手術のメリットを生かすことができるのは、腹腔鏡手術に長けたスタッフがおり機器が充実した施設です。当消化器センター外科では手術時には日本内視鏡外科学会が審査している「内視鏡外科学会技術認定医」を必ず二人以上配置して安全な手術、質の高い手術に取り組んでおります。

今後も内科、外科で一体となって治療に取り組み、患者さんのご期待に応えられるよう努力していく所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。



＜消化器センター
准教授 澤田成彦＞

- P1. 【巻頭言】消化器センターでの癌治療
- P2. 【医学講座コーナー】こどもの夏かせ
- P3. 七夕関連のお知らせ

- P4. 病院からのお知らせ
- P5. 患者さんからのご意見・ご要望
- P6. 病院周辺の写真募集について
編集後記

【医学講座コーナー】こどもの夏かぜ

どんな病気？

(文責：こどもセンター 教授 池田裕一、監修：臨床病理診断科 講師 江原 佳史)

「かぜ」の病原体は100種類以上も存在すると思われていますが、90%以上の原因はウイルスによる感染症です。一般的に「かぜ」と呼ぶのは、咳や痰、はな水などを伴った呼吸器系の感染症を指しますが、消化器症状と関連した「お腹にくるかぜ」、また突然耳の下が腫れる「おたふくかぜ」などの言い方もあります。

冬はかぜのシーズンとよく言われますが、これに対し夏かぜとはどのようなものを意味しているのでしょうか。夏かぜは、特に夏期に流行するかぜで、その多くはエンテロウイルスとアデノウイルスによって引き起こされます。エンテロウイルスにはポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルスなどが含まれます。これらのウイルスに感染して発症する夏かぜは、多彩な症状を呈し、感染したウイルスの違いにより、ヘルパンギーナ、手足口病、咽頭結膜熱などを発症します。成人では高熱、頭痛、咽頭痛を伴うものや、胃腸症状で発症する下痢症がよくみられます。

症状や兆候は？

- 1) ヘルパンギーナは突然の発熱で発症することが多いです。幼少児では発熱前に機嫌が悪くなり、食欲の低下がみられます。通常、体温は平熱から高熱まで幅広く、年齢が小さいほど高い傾向にあります。口の中にできる水泡は発熱時、もしくは発熱後まもなくして気づかれることが多いです。
- 2) 手足口病はその名のとおり、手掌や足底、口腔内に水疱ができます。膝やお尻にできることもあります。発熱はあまりみられませんが、口内炎がひどくなり、水分が取れなくなると脱水に注意が必要です。
- 3) 咽頭結膜熱（プール熱）は発熱、咽頭炎と結膜炎の三つの症状が有名ですが、この3つの症状が常に揃うとは限りません。通常は突然の咽頭痛や全身のだるさ、眼の痛み、高熱などで発症することが多いです。



診断は？

ヘルパンギーナは喉の奥に赤いぶつぶつした水泡が多発するのが特徴です。手足口病はヘルパンギーナと同様の喉の所見に加えて、手のひらや足の裏に赤い丘疹（きゅうしん）がみられます。これらの特徴的な所見があれば両者の診断がつきます。一方で咽頭結膜熱は咽頭ぬぐい液を使用してアデノウイルス抗原が陽性になるか調べます。

治療について

ヘルパンギーナや手足口病では、水分補給や解熱剤などを使用しつつ自然に治るのを待ちます。発熱は1～3日程度、喉や手足の発疹は3～6日程度で落ち着いてきます。通常は比較的軽症で終わるため、特別な予防措置の必要性はありませんが、不必要に乳幼児を病気に罹患している人に接触させないようにしましょう。咽頭結膜熱も特別な治療薬などはないため、自然に治るのを待ちます。発熱や咽頭炎、結膜炎は数日～1週間程度続きます。原因のアデノウイルスは感染力も強く、学校保健安全法には『主要症状が消失し2日経過するまで出席停止』と定められています。成人に関しては決められたものではありませんが、感染拡大防止には小児に準じた対応が望ましいです。

【お知らせ】七夕の病院食について

7月7日は、五節句の1つでもある七夕です。

五節句は、季節の旬の食物を食べることで邪気を祓うとされています。

当院も夕食に七夕献立を提供させていただきます。

主食のちらし寿司に使用する酢飯のお酢には、唾液や胃液の分泌を促し消化吸収を助ける働きがあります。また、お酢に含まれるクエン酸には疲労回復の効果があると言われています。

副菜の和え物には、旬の大葉を使用しました。年間を通して出荷されている大葉ですが、旬は5~8月頃。和風ハーブとも言われβ-カロテンが多く含まれ、抗酸化作用があり活性酸素から細胞を守る働きがあります。

その他には、ジューシーに焼き上げた鶏の照り焼き、天の川に見立てた清汁、さっぱりとした味わいの七夕ゼリーをご用意させていただきます。

日増しに暑さが厳しくなりました。皆さまくれぐれもご自愛ください。



※写真は昨年度の献立です。

【お知らせ】七夕の竹を設置しました

中央棟1階ホスピタルストリートに七夕用の竹を設置しました。当院で毎年七夕に設置している竹は当院敷地内から切り出した「当院生まれ」の竹です。竹は冬の寒さにも強く、まっすぐ育つ生命力があることから、昔から「魔除け」の力があると考えられてきたようです。この機会に、「魔除け」の竹に願いを込めて短冊をつるしませんか。

中央棟1階ホスピタルストリートに短冊を用意しておりますので、お立ち寄りの際には「願い事」を記入して竹の葉に結びつけてください。



<昨年院内に設置した竹>

【お知らせ】市民公開講座を開催しました

5月29日（土）に市民公開講座を開催しました。今回の市民公開講座は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、初のオンライン開催となりました。当日は100名を超える方々にご参加いただき、好評のうちに終了いたしました。ご参加いただいた皆さまにこの場を借りて御礼申し上げます。



<今回の市民公開講座の司会者・演者>

左は、感染管理室 室長 鈴木浩介

中央は、内科（腫瘍） 准教授 石田博雄

右は、総合サポートセンター 係長（がん看護専門看護師）脇谷美由紀

なお、講演の録画は7月31日（土）までの期間限定で公開しております。動画は当院ホームページからご視聴いただけます。ぜひご覧ください。

【お知らせ】国民の祝日の移動に伴う当院の診療体制について

東京オリンピック・パラリンピック開催に伴い、国民の祝日「海の日」「スポーツの日」「山の日」が移動します。それに伴い、当院では以下のとおり診療体制を変更いたします。

通常診療

7月19日（月）

8月11日（水）

10月11日（月）

休診日

7月22日（木）

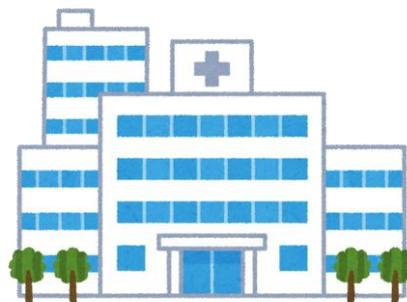
7月23日（金）

休日診療

（外来診療は縮小します）

8月9日（月）

9月20日（月）



患者さんからのご意見・ご要望

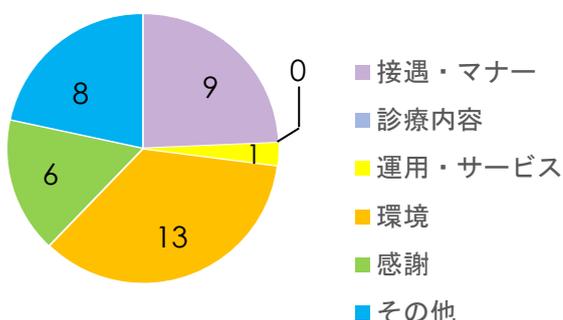
日々患者さんよりいただきましたご意見・ご要望に関しましては、病院長及び関連する部署の責任者に報告し、改善に努めております。

今までのご意見の中で多くいただいたものや最近のご意見・ご要望を中心に改善策を掲載させていただきました。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

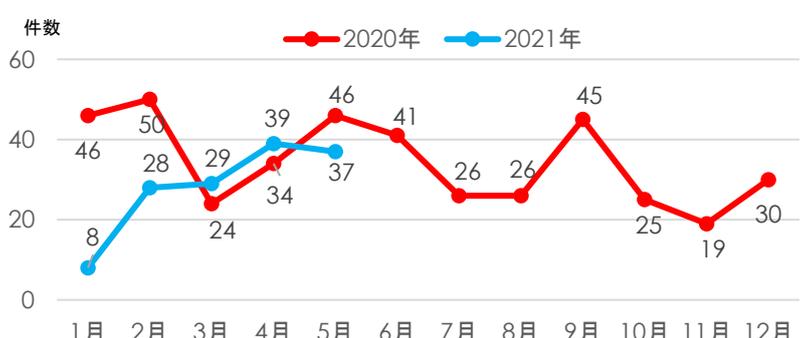
今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	回答・改善等
<p>運転免許証を返納し、バスで通院しているのですが、バスの時間を調べようと思っても時刻表が見当たりません。 どこかに貼っていただくと助かります。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 中央棟地下1階出入口付近に、センター南駅バス停の時刻表（主要路線）を掲示しました。 全路線の時刻表は、中央棟1階の総合受付に用意しましたので、ご利用の際はお声掛けください。 (回答部署：管理課)</p>
<p>面会の受付場所を地下1階防災センターと聞きましたが、「防災センター」という表示はどこにもなく、「時間外受付」となっています。 防災センターの表示があった方が良くと思います。</p>	<p>ご迷惑をおかけし申し訳ございません。 現在の「時間外受付」という表示を「時間外受付（防災センター）」に変更する予定です。 (回答部署：管理課)</p>
<p>見た目では分からない障害があります。 「ゆったりトイレ」を利用する際、車椅子等の利用者や高齢者から注意されることがあります。 外見では分からない障害者も利用していることを掲示して欲しいです。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。 また、この度は不快な思いをさせてしまい申し訳ございません。 当院の「ゆったりトイレ」は、障害がある方も、ない方もどなたでもご利用いただけます。 早速、障害のある方、目に見えない障害がある方、介助が必要な方、車椅子ご利用の方をはじめ、誰もが利用することが分かる表示内容を検討し、変更します。 (回答部署：管理課)</p>

2021年5月
ご意見・ご要望の総計37件



2020年・2021年
ご意見・ご要望の推移



【お知らせ】

開院 20 周年記念誌作成に伴う病院周辺の写真募集について

当院は 2020 年に開院 20 年目を迎えました。20 周年を記念して発行する記念誌のために、開院から現在までに当院周辺で撮影された写真を募集します。

退院等の際に医師や看護師と記念撮影した写真や、当院で開催したイベント等に参加した際の写真など、お手持ちの写真に当院や当院職員が写っているものはありますか？

ご提供いただける写真をお持ちの方は、以下までご連絡いただけますと幸いです。

【問い合わせ先】

管理課 企画庶務係

電話：045-949-7000（代表）



編集後記

日ごとに暑さやジメジメが増してきており、マスクを着けて過ごすことがつらい季節となりました。7月7日といえば七夕ですね。織姫と彦星が年に一度会うことのできる夜です。

そして、願い事を書いた短冊を笹の葉につるして飾る行事でもあります。もともとは女の子の針仕事や裁縫の上達を願って行われていました。

かつての旧暦7月7日は、現在の8月頃だったそうで、晴れていることが多かったでしょう。

しかし、現在の7月7日は梅雨の最中ですから、天候がくずれることが多いです。

七夕に降る雨を催涙雨（さいるいう）と呼ぶらしく、雨が降る時間帯によって「会えなかった1年分の嘆きの涙」「再会した喜びの涙」「再び別れる悲しみの涙」と様々な意味が込められているそうです。

今年の七夕は織姫と彦星が出会えるように雨が降ることを祈ってみてはいかがでしょうか。

（臨床工学室 柳橋 歩里）



北部病院だより 第157号
2021年7月1日発行

発行責任者 門倉 光隆（昭和大学横浜市北部病院長）

編集責任者 緒方 浩顕（広報委員会 委員長）

発行 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話 045-949-7000(代表)

URL：<https://www.showa-u.ac.jp/SUHY/>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。